当面のスローガン

- 「人権侵害救済法」制定を！
- 狭山再審闘争勝利をかちとろう！
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう！

解放新聞 和歌山版

発行所
解放新聞和歌山支局
〒640-8314
和歌山市神前405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302
発行責任者
中澤敏浩

企業連第42回定期総会
新たな時代へ対応する企業連組織へ

9月21日、午後1時より「第42回部落解放和歌山県企業連合会定期総会」が和歌山市民会館小ホールでひらかれ、約1000人の企業連会員が参加した。

企業連を代表して瀧口秀光・理事長より、昨年9月に紀南地方を襲った台風被害に際しご協力いただいた565、376円の支援カンパを新宮と田辺支部に分配してきたことが報告された。また、日本経済においては歴史的な円高や長引く不況によって、部落の中小零細企業をとりまく環境は非常に厳しく、廃業や倒産に追い込まれている。地域経済の活性化と雇用促進に向け、行政による大胆な施策が必要である。狭山再審闘争については10回におよぶ三者協議がひらかれており、今年は大きな正念場を迎えている。さらに、司法書士や行政書士の立場を利用し戸籍謄抄本など個人情報の不正取得をおこない、興信所に情報を売買するという差別事件が全国的に多発している。こうした現状をふまえ、9月19日に「人権委員会設置法案」「人権擁護委員会改正案」が閣議決定された。今後の国会の動向を注視するとともに「人権侵害救済法」の早期制定に向けたとりくみを強化していく必要がある。私たちは、新たな時代に対応しうる企業連組織の構築と人権確立社会の実現に向け一丸となってとりくんでいくとあいさつがあった。

総会であいさつをする瀧口秀光理事長

和歌山県連を代表して、池田清郎・執行副委員長は「来年は和歌山県水平社90周年の年である。水平社の理念・伝統・歴史をふまえながら部落の自営業者が結集し自立していくために企業連が設立され、42年にわたり大きく前進し成果をかちとってきた。経済状況の厳しい時代に突入したいま、企業連組織の重要性を再認識し、一致団結して運動を推し進めていただきたい」とあいさつがあった。

来賓については、県・市とも議会中であり首長が参加できなかったものの、室谷匡利・県商工観光労働部商工労働政策局長、井本滋之・和歌山市審議監の2人から祝辞がのべられた。つづいて、すべての来賓紹介、祝電披露をおこなった。

その後、総会運営委員会報告、2011年度活動報告、決算報告、会計監査報告、そして、2012年度活動方針案、予算案の提案、新役員の発表・代表あいさつがあり、すべての提案事項とともに採択され無事閉会となった。

◆新役員は次のとおり

理事長　瀧口　秀光
副理事長　飯田　敬文
専務理事　中辻　繁樹
事務局長　田中　博之

【来賓】

○和歌山県　室谷匡利・商工労働政策局長、土井敏弘・商工観光労働総務課長、南木芳亮・商工振興課副課長、西本晴彦・労働政策課副課長、宮崎泉・企業振興課長、堂代和孝・人権局長、北山芳宏・人権政策課長、小西佳美・人権施策推進課長　○和歌山市　井本滋之・審議監　○日本政策金融公庫和歌山支店　村上尚典・国民生活事業統轄、齋藤善幸・中小企業事業総括課長、鳴谷元・農林水産事業統轄　○和歌山県信用保証協会　楠山勝弘・常務理事　○和歌山商工会議所　上田賢司・事務局長　○商工組合中央金庫和歌山支店　大井康司・支店長　○紀陽銀行本店　小上隆・人事相談室長　○兵庫県企業連合会　木村政司・副理事長　○企業連顧問　北山和信・税理士、佐竹節夫・税理士、福田功・税理士、仁木靖夫・税理士、橋本義彦・税理士、藤井幹雄・弁護士、新井悠喜雄・行政書士、宮本澄磨・融資審査委員

（順不同・敬称略）

那賀支部青年部結成

県内青年部の組織強化に向け、オルグ活動を展開してきたなか、那賀支部第43回定期大会において、那賀支部青年部が結成された。

来賓の藤本哲史・県連書記長は「第57回県連大会の運動方針にもあるように、次代を担う活動家の育成は今後の解放運動にとって重要である。県下の青年層が減少しているなかで青年部が結成されたことは非常に大きい」と激励のあいさつをした。

その後、松井資喜・県連青年部長から青年部荊冠旗が贈呈された。

これで、14支部に青年部が結成された。

県連青年部長より荊冠旗が贈られた

頑健

これが届くころは、すっかり秋らしくなっていると思う▼先日の中秋の名月のことだが、私たちは子どものころ月の影に『兎の餅つき』を思い浮かべたが、国が変わると「亀」「蛙」「ドラゴン」などさまざまに観えるらしいのだ。不思議なもので同じモノを見ていても違うのである。それは、たぶんそれぞれの歴史とか文化、習慣、つまり国や民族のアイデンティティなのだ。私たちは、固定的な価値観で解決できない多様性のなかで生きているのである。「兎」が正しい、でも「蛙」も正しいのである▼今、北から南の果てまでの広い地域で、国境や領土をめぐってアジア全体が揺れている。複雑な国内事情や歴史観、さらに経済問題も含め複雑に絡み合い、一見四面楚歌の感である。当然ながら、それぞれの国で偏狭な民族主義の台頭が懸念される。そして、多様性・異文化の承認と交流が遠のいていくような、そんな心配が起きてくる▼長崎の料理に「和漢蘭（わからん）料理」というのがある。和食・中華・西洋の料理が出てくる不思議なコースである。私たちは、韓国も中華もイタリアンも、それにロシア料理だって好きだし食べる▼私たちは、どうあがいたって一人では生きられない。それは、国家であっても同じである。勇ましい話は簡単だ、しかし、低次元と指摘されようが「蛙」も見ようによっては可愛い（笑）と感じることが今必要だ。（S・I）